



浅間の春 F4

## 浅間の春

火の山には  
桃の花がよく似合う

春の浅間を描きたいと  
思い立った その頃は  
下仁田街道を辿り内山峠を越えて  
いっさんに佐久平に降っていった

火の山はいつも  
音もなく煙を吐いて  
移りゆく季節の衣裳をまといっている

芽吹きはじめた雑木林の中には  
こぶしとさくらとかたくりと  
湯川のほとりの畑には菜の花  
田の面に浅間が映える頃はアカシヤ

この頃のわたしは  
唄坂峠の桃畑にいる

略歴 ・大正15年／加須市に生まれる ・昭和24年／東京美術学校（現東京芸大）卒 ・光風会展に入選 ・昭和57～62年／埼玉県美術教育連盟副連盟長 ・群災美術協会創立委員 ・会長 ・慈彩会会員 ・著書 ・詩画集3部作他